

第 26 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 24 日（水） 14：00～15：30

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

1. 小規模デブリ取り出しの検討状況について

東京電力から、小規模デブリ取り出しの検討状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 液体系の閉じ込めは、燃料デブリ取り出し時に発生する切削粉のみならず、現状のトーラス室の状況や建屋の水位を下げた状況も踏まえ、適切な範囲で管理できるように、閉じ込めのシステムを検討することが重要である。
- 燃料デブリ取り出し装置は、メンテナンスのため確保可能なスペースを前提条件として設定し、装置設計に反映していくことが重要である。
- 燃料デブリ取り出しの装置の取り出し量の増加や効率化は、将来的に必要であるから、新規アイデアの採用も含め、継続的に検討されるべきである。
- 燃料デブリ取り出しの安全にかかわる評価や、設備の準備については、最終的には規制に係る許認可が必要となるので、規制当局との協議を見込んだスケジュール感で準備することが肝要である。
- 作業員の被ばく管理計画については、具体的な作業の計画に当たって重要な取り組みとなると考える。なお、原子炉建屋内などの現場の状況も作業に応じて変化していくことになることから、そのことも踏まえて、計画を行っていくべきである。
- 燃料デブリの取り出しは、現場の状況に応じた取り出し方を検討する必要があることから、その作業計画についても、作業により得られる現場の情報を確認しながら、構築、更新していくべきである。
- モックアップを用いることで、現場での作業計画等の検討が合理的に実施できる可能性があるから、燃料デブリ取り出し作業と並行してモックアップ設備を利用できるようにしておくことを検討するべきである。

2. 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」の取組状況について

NDF から、「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」の取組状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出し方法の検討においては、それに応じて発生する廃棄物の管理のあり方も同時に検討しておくことが重要である。

以上